

ケニア共和国 ウィリアム・サモエイ・ルト大統領による演説概要 (令和7(2025)年8月20日)

(ご紹介いただき)ありがとうございます。

横浜市会議長 渋谷 健様、横浜市長 山中竹春様、横浜市議員の皆様、ならびにご来賓、ご列席の皆様

まず初めに、日本に到着して以来、この素晴らしい街 横浜において私ならびにわが国代表団を温かく迎えていただき、数々のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。さらに、世界で最も活力のある都市 横浜の象徴ともいえるこの由緒ある横浜市会において皆様にお話しする機会をいただき大変光栄に思います。

横浜は、産業の中心地として繁栄し、対日直接投資の誘致先となっているだけでなく、国際的に認められた商業、文化、イノベーションの中心地でもあります。横浜が未来のグローバル都市(global city of the future)として高く評価されるのは当然のことであり、横浜にはそれにふさわしいものがあります。

議長ならびに市議員の皆様、スマートシティへの取り組みを通じて横浜は、研究、イノベーション、そして人間の知恵や創意工夫により社会変革が実現し、かつ、将来を見据えたレジリエントなコミュニティの構築の可能性を実証しています。横浜は、ビジョンと持続的な取り組みによって有意義でかつ包摂的な発展を可能にするという公約を具体化しています。ケニアは、こうした横浜の実例から多くのことを学び、共創の機会を創出することに重きを置いています。

「ケニアと横浜の未来を共創する」という本日のテーマは、国際協力の真髄に触れるものであります。国家間の関係は、最終的に国民の共通の利益に資するものでなければなりません。国家間の絆は、文化交流や教育プログラム、スポーツ分野での連携、知識の共有などを通じて深まっていきます。そうした観点から、本日の聴衆に、横浜各地からの生徒・学生の皆さんが含まれていることをうれしく思います。相互交流は、固定観念を打ち破り、文化的理解を深化させ、相互の隔たりを埋め、紛争を防ぎ、信頼を生み出します。

他の人と出会い、互いに学び合い、経験を分かち合うことにより、人々は、平和と相互理解と繁栄を推し進める、信頼のおける、優れた「アンバサダー(ambassador)」になります。ケニアと横浜の間には、そうした強力なパートナーシップがすでに存在しています。例えば、横浜商業高等学校とケニアのアライアンス高等学校の間で実施されている交流プログラムは、双方の生徒たちに、真の異文化体験や教育機会を提供するものとなっています。こうした取り組みを通じて、生涯にわたる友情が育まれます。ケニアは、より多くの学校、専門学校、大学において同様のプログラムが大々的に展開されることを歓迎します。

ケニアと日本を結ぶもう一つの強力な架け橋としてスポーツがあります。スポーツ分野における両国の関係は、1980年代以降、拡大・強化されてきました。私は、ケニア人アスリートとして初めて日本でトレーニングを受け、活躍し、新たな道を切り開いた伝説のマラソンランナー、ダグラス・ワキウリに敬意を表します。その後、彼に触発された何百人ものアスリートたちがそれぞれの分野で活躍しています。現在、200人以上のケニア人アスリートが日本のスポーツ機関で活動し、人的交流を促進・強化し、次世代アスリートに刺激を与えています。これは、彼らがスポーツへの情熱と卓越した能力を兼ね備えていることを示す注目すべき事実です。ラグビー、バレーボール、サッカーなど日本のさまざまなスポーツ団体や組織において、才能と専門知識を併せ持つケニアの人材の登用を検討していただければ幸いです。また、日本のパートナーの皆様には、ケニアの学校で行われる演劇や音楽フェスティバルに参加していただくようお勧めします。豊かな才能を披露する場となるこれらのイベントは、文化交流や人材育成について学ぶ貴重な機会となり、また異文化に対するグローバルな理解を深めるための強力な基盤となります。

ご列席の皆様、ケニアは、2016年に日本国外で初めて開催された第6回アフリカ開発会議のホスト国を務めたことを誇りに思っています。その会議では、海運分野においてアフリカの役割が増大している状況やアフリカ独自の開発アジェンダが確認されました。そして、その会議で我々が明らかにした、パートナーシップに対する我々の共通のコミットメントは、今なお強く想起されています。投資やインフラ、人的資本、持続可能な成長に関するアフリカと日本の協力関係は、TICADの枠組みのもとで持続的に強化されています。ケニアと日本は、60年以上にわたる素晴らしい友好関係を構築してきました。この間、日本は、常に、ケニアの発展を支える揺るぎないパートナーの立場にありました。日本の貢献は、インフラ、農業、水資源、エネルギー、保健・衛生、人材育成・開発といった主要な各分野に及んでいます。地熱発電からモンバサ港の世界的な海運ハブへの変革までさまざまな分野における日本の支援は、ケニアをアフリカの戦略的ゲートウェイに位置づける上で極めて重要な役割を果たしました。

120社を超える日本企業がケニアで成功を収める中で、両国の民間セクターの強固な連携がさらに拡大しています。民間資金は雇用創出、技術移転、産業の成長に貢献するものであり、またケニアの経済改革を支える重要な資金となっています。

本日このあと、私は、この横浜で開催される「ケニア投資フォーラム」を主宰します。横浜市との共催となるこのイベントでは、ケニアの活力に満ちた投資環境について説明し、インフラから再生可能エネルギー、農業ビジネス、デジタルイノベーションに至るさまざまな優先分野を重点的に取り上げて紹介します。横浜の民間セクターの皆様には、ぜひケニアに存在する無限の機会を活用していただきたいと思います。日本とケニアの関係については、これを、両国に存在する機会を最大限に

活用できる水準まで高める必要があります。わが国の輸出加工区（export processing zone）と特別経済区（special economic zone）は、投資家に対して世界水準のベンチマークを提供しています。ケニアは、「シリコン・サバンナ（Silicon Savannah）」として広く知られている、アフリカ有数の活気に満ちた技術的エコシステムの拠点になっています。

私は、特に日本の民間セクターの皆様には、アフリカの成長のゲートウェイであるケニアが提供する幾多の機会を活用していただきたいと思います。わが国には、教育水準が高く、技術に精通し、最先端技術を活用してアフリカ大陸はもとより世界規模でイノベーションを推進するに十分な能力を備えた若者が多数存在しています。私は、すでに多くの日本企業において大学卒業資格を有するケニア人の採用が開始され、日本での研修・配属が進んでいることをうれしく思います。ケニア政府は、日本との間の労働移動の枠組みを正式に決定し、それにより日本経済に貢献するケニア人を増やし、両国民の友好関係を深化させることに取り組んでいく所存です。

市会議員の皆様、ケニアのエネルギーミックスにつきましては、すでにその 90%を環境にやさしい再生可能エネルギーが占めています。その結果、投資家は、カーボンフットプリントが世界最小レベルにあり、信頼性が高く、競争力のある価格の電力にアクセスできるようになりました。これは産業基盤を確立するための理想的なプラットフォームとなります。さらに、農業部門では、カーボンフットプリントを最小限に抑え、かつ気候変動を意識した世界のサプライチェーンと整合しながら、持続可能な手法で生産した高品質な農産物が提供されています。こうした強みや利点とケニアの活気ある市場や地域的接続性が相まって、ケニアは、日本からの投資に関してアフリカにおける最大の戦略的投資先となっています。

ご列席の皆様、ケニアは人類発祥の地であり、人類最古の遺産が保存されています。魅惑的な国ケニアでは、息をのむような絶景、国を象徴するライオンや野生生物、多様な文化などを楽しむことができます。それ故、私はいつも、ケニアを訪れる人々は単なるツーリストではなく、ふるさとに戻る帰郷者のようなものであると述べてきました。我々は、より多くの日本の皆様がケニアを訪れ、新たな驚きの郷（home of original wonder）ケニアの魅力を発見されることを心より歓迎します。

ケニアはまた、東アフリカ共同体（East African Community）のゲートウェイとなっていることにも誇りを持っています。この共同体は 8 か国で構成され、その総人口は 3 億人、総 GDP は約 3,300 億米ドルにのぼります。この共同体の発足により、簡素化された越境貿易と有能な労働力を特徴とする、膨大な成長可能性を秘めた、活力ある共同市場が創出されました。東アフリカ共同体とアフリカ大陸の重点地域の連携により、投資家は東アフリカのみならず、アフリカ大陸全体にアクセスできるようになりました。したがって、日本、特に横浜のビジネスコミュニティの皆様

には、東アフリカ共同体との連携を拡大していただきたいと思います。

横浜が日本から世界へのゲートウェイとなっているように、ケニアは、東アフリカひいては広大なアフリカ大陸へのゲートウェイとなっています。

結びに、人類は常に協力や協調を通じて繁栄してきたことを改めて強調しておきたいと思います。相互の関連が重視される今日の世界において、パンデミックへの対応、気候変動の緩和、食料不安との闘い、平和の維持などあらゆる局面において我々が相互依存の関係にあることは、これまで以上に明確な事実となっています。ケニアは、日本や国際社会と連携し、これらの課題に共同で取り組み、相互利益につながる機会を模索していく所存です。我々が共有している、民主主義、自由、法の支配といった価値観が、人類のための共通の解決策を追求するための強固な基盤となります。

アサンテ・サナ (Asante sana)。皆様に感謝します。アリガトウゴザイマス。ご清聴ありがとうございました。